

「福祉の現場の声とロボット技術」開催にあたって

学術講演会実行委員長 増田良介

ロボット技術の発展とともにその応用分野が広がり、人間の生活に密着するような分野への可能性が注目されるようになってきました。環境や人に優しい技術化社会への変革が求められている現代、ロボット技術は最も期待を寄せられている技術でありましょう。ロボットのような先端技術は、実際に高齢者や障害者の生活の支援のために使われれば大きな力を発揮するでしょう。しかしながら、従来のロボット機器においては使う人の立場からの機構の設計や、操作制御系の構築というものが抜けてしまっていることが指摘されてきてい



ます。また、自律的で柔軟な作業が実現できるといわれている知能ロボットは実際には使いくわたり、場合によっては利用者に大きな負担がかかたりすることもあるのです。また、ロボットが対象とするものが人間そのものであるということも、従来にない発想と注意が要求されることとなります。

本セッションは障害を持つ方も持たない方も共に生きるということを主題に、ロボット技術を考えてみようということで、公開形式の特別セッションとして企画構成されたものであります。福祉の現場からの報告によって、何が必要なのが、何が問題なのかそしてロボットには何が欠けているのかを明らかにし、ロボット技術の側から何ができるのか、何ができないのかといったことを明らかにし、それらをよりよく結びつけて方向性を探っていこうとするものであります。日本ロボット学会の学術講演会の会場で、それぞれの立場で肩肘張らず本音で語ることによって、誰もが生き易い社会をロボット技術に託して真剣に構築していこうとするきっかけの場を作りたいと考えております。このセッションを通して明らかになった問題点とその解決策、必要とされる技術、新しい考え方、提案、工夫、アイデアなどが、将来のこの分野の技術の発展の道すじになれば幸いです。

本特別セッションに話題を提供していただく方々、討論に参加していただく方々、そして、参加できなくても別冊資料に貴重なご意見を出していただいた方々全てに大いなる感謝の意を表します。また、本セッションの企画と実施にご尽力いただいた電総研の小野栄一氏に感謝したいと思います。